

ふなばしの自然

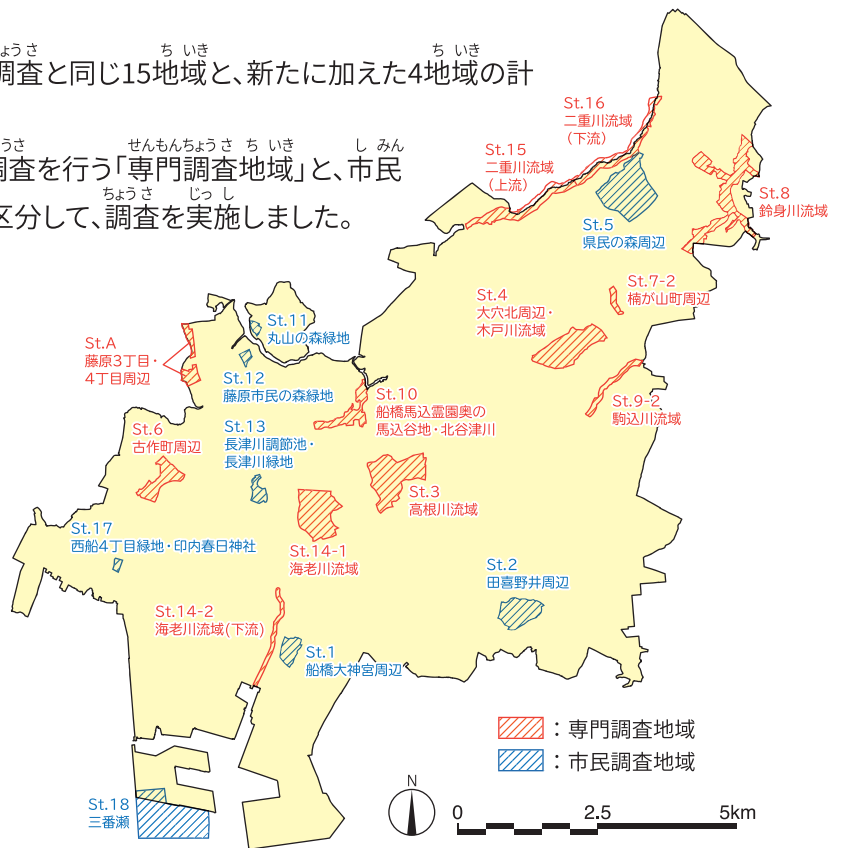
令和6～7年度 船橋市自然環境調査

調査の概要

船橋市の貴重な自然および希少な保護すべき生き物や、外来種等に関する自然環境状況を把握するために、現地調査を行いました。

現地調査は、平成25～26年度に実施した前回調査と同じ15地域と、新たに加えた4地域の計19地域で実施しました。

今回の調査では調査地域を、専門の調査員が調査を行う「専門調査地域」と、市民や市民団体が主に調査を行う「市民調査地域」に区分して、調査を実施しました。



専門調査の風景

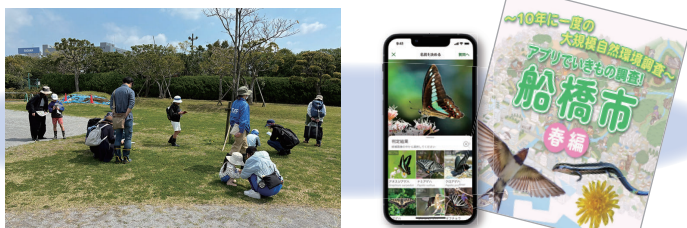
とあみなどを用いて、魚を捕まえました。

調査地域ごとにルートを決めて、その中で確認した鳥を記録します。(ラインセンサス調査)

昆虫は専用の大きな網を用いて採集しました。

市民調査について

市民調査では、いきものコレクションアプリ「Biome」を活用して船橋市内の生き物のデータを集めました。「Biome」とは、生き物を撮影し、アプリに登録するだけでAIによって自動で種を見分けることができるアプリです。また、アプリの使い方や生き物の探し方を学べる「現地調査イベント」を季節ごとに開催しました。春と夏のイベントでは、環境DNAの採水も体験してもらいました。

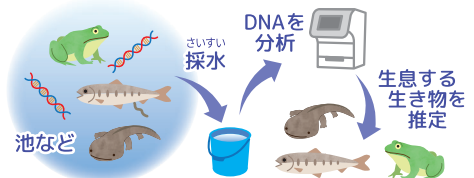


環境DNAとは...?

水中で生き物から排出された糞や体液などに含まれるDNAを「環境DNA」といいます。水中に含まれる対象の生き物のDNAの有無から、その水域に生息する生き物を推定できます。水を汲んで分析するだけで生き物の推定ができることから、

- ① 生き物を傷つけない
- ② 生息環境を損なわない
- ③ 現地調査にかかる労力が低減される

といった利点がある手法として知られています。



調査の結果

調査の結果、2,632種の生き物が確認されました。調査にあたっては「指標種」を選定し、環境の変化の把握や評価に使いました。また、希少な生き物である「重要種」や他の地域からもちこまれたと考えられる「外来種」が多く確認されました。

調査項目	確認種数	調査項目	確認種数
植物	1,097種	魚類	98種
ほ乳類	12種	底生動物	153種
鳥類	144種	底生動物(三番瀬)	177種
両生類	7種	うち重要種	205種
は虫類	11種	うち外来種	551種
昆虫類	933種		

指標種について

ある特定の環境に生息し、環境の変化に敏感に反応する生き物です。その生き物が見られるかどうかで、その地域の自然の状態を知ることができます。今回の調査では、40種を指標種として選びました。

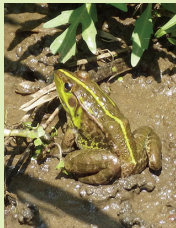
例えば、両生類であるトウキョウダルマガエルは谷津田環境の指標種として、昆虫類であるクマゼミは地球温暖化の指標種として、鳥類であるミヤコドリは干潟環境の指標種として選びました。

また、生きものが暮らす自然環境どうしをつなげる考え方である生態系ネットワークの指標種としてシジュウカラなどを選びました。

指 指標種 重 重要種 外 外来種

谷津田の指標種

トウキョウダルマガエル 指重



水田や湿地に生息する中型のカエル。春から秋に見られる。

温暖化の指標種

クマゼミ 指



体長6~7cmの大型のセミ。もともとの分布は西日本であったが、温暖化に伴い分布が関東地方南部まで北上した。

干潟の指標種

ミヤコドリ 指重



体が黒、お腹が白、くちばしは赤、足はピンクという特徴的な見た目の鳥。

二次林の指標種

ノコギリクワガタ 指



樹林に生息するクワガタ。オスは大きく曲がったあごをもつ。

草地・耕作地の指標種

オオカマキリ 指



主に草地に生息する大型のカマキリ。冬の間は枯れたススキや枝などで卵を見ることが出来る。

河川の指標種

カワセミ 指重



水辺に生息する青色と橙色の体色が特徴の鳥。河辺の木の枝にとまって獲物を探すが見られる。

指標環境を基準とした指標種

<谷津田>

サンバ、トウキョウダルマガエル、タニシ類など

<草地・耕作地>

ススキ、カヤネズミ、ヒバリ、ヒガシニホントカゲなど

<河川>

ナガエツルノゲイトウ、カワセミ、アカミミガメなど

<二次林>

ヤマユリ、キンラン、ノコギリクワガタなど

<公園緑地>

ニホンカナヘビ、シジュウカラなど

<干潟>

ミヤコドリ、ダイゼン

その他基準の指標種

<地球温暖化>

ツマグロヒョウモン、ナガサキアゲハ、クマゼミ

<外来種>

アライグマ、オオキンケイギク、アカボシゴマダラなど

<生態系ネットワーク>

コゲラ、シジュウカラ

※指標環境：指標種が見られるかどうかによって、その場所の自然の状態を知ることができる環境

じゅうようしゅ

重要種について

今回の調査で確認された生き物のうち、人の活動や環境の変化によって数を減らしている希少な生き物を「重要種」とよびます。船橋市内でも多くの重要種が見られました。

※重要種は下の4つの基準のうち少なくとも1つにあてはまるものとなりました。

- ① 文化財保護法
- ② 種の保存法
- ③ 環境省レッドリスト
- ④ 千葉県レッドデータブック

指 指標種 重 重要種 外 外来種

チョウトンボ

指 重



チョウのようなひらひらとした飛び方をするトンボの仲間。翅は金属のような光沢を放つ。

キンラン

指 重



春に黄色の花を咲かせるランの仲間。山やなだらかな高い土地の林に自生している。

ハイタカ

重



小型のタカの仲間。スズメやツグミといった小型～中型の鳥を主に捕食する。

マルガタゲンゴロウ

重



水田や湿地に生息するゲンゴロウの仲間。国内希少野生動物植物種にあたる。このような希少な昆虫も今回調査で確認されている。

がいらいしゅ

外来種について

人の活動によって他の地域から入ってきたと考えられる生き物を「外来種」とよびます。外来種の中には、生態系や農作物に大きな影響を与えるため法律によって飼育や栽培、運搬等が禁止されている特定外来生物に選ばれている種があります。今回の調査では特定外来生物が17種確認されました。

カダヤシ

外



メダカによく似た北米原産の特定外来生物。在来メダカの生息に影響を及ぼすと言われている。

ナガエツルノゲイトウ

指 外



南米原産の特定外来生物。繁殖力が高く、ちぎれた断面からも再生する。

アライグマ

指 外



雑食の哺乳類。街中にも生息している。特定外来生物に指定されている。

アカミミガメ(ミシシッピアカミミガメ)

指 外



ミドリガメの名称でも知られる。野生化したものが定着し、在来カメの生息環境を脅かしている。

アメリカザリガニ

外



元々食用で輸入された外来種。水草を捕食したり切ったりしてしまうことから、水草に依存する様々な生きものの生息を脅かしている。

指 指標種 重 重要種 外 外来種

条件付特定外来生物とは

アカミミガメ、アメリカザリガニについては、「条件付特定外来生物」に定められています。これらの種は飼育はできますが、野外への放流は禁止されています。



やっだ 谷津田



やっ だいち だいち
 谷津とは...台地と台地
 の間に入り込んだ小さな谷地
 ちけい
 地形を指します。船橋市では北部
 のこ
 に多く残っています。谷津地形
 には水が集まりやすく、谷津を活
 やっだ
 かした田んぼを谷津田といいま
 やっだ
 す。谷津田には様々な生き
 ものが集まります。

St.10



ふなばしまごめれいえんおく
 船橋馬込霊園奥の
 まごめやちきたやっがわ
 馬込谷地・北谷津川



St.8

すずみ がわりゅういき
 鈴身川流域



 : 専門調査地域
 : 市民調査地域



St.7-2

くす やまちょうしゅうへん
 楠が山町周辺



谷津田で見た生きもの

指 指標種 重 重要種 外 外来種

マルタニシ

指 重



水田や水路に生息する、淡水性の巻貝。底泥や水生植物についた微小生物を餌とする。

ウスゲキョウジタテ

重



水辺や湿地に生える植物。茎や葉に細かい毛がある。黄色の花を夏～秋につける。

ニホンアカガエル

指 重



水田や湿地に生息するカエル。体の色は黒～赤の褐色。カエルの中では産卵が早く、場所によっては1月から卵が見られる。

モズ

指



林縁などに生息している鳥。木の枝や有刺鉄線に捕獲した生物を刺し保管する「はやにえ」で有名。

ホオジロ

重



里山や谷津田のあぜ道などで見られる鳥。名前のとおり、オスは白いほおが特徴。

アキアカネ

指



いわゆる赤とんぼ。オスは成熟すると腹が赤くなる。秋になると湿地や水田に産卵する姿が見られる。

サシバ

指 重



里山や丘陵に生息する猛禽類。カエルやへびなどの餌を探しに谷津田を訪れることも多い。大きさはカラスと同じくらい。

ヒガシニホンアマガエル



湿地などに生息する小型のカエル。環境に合わせて体の色を変化させる。

ヌマガエル

外



水田や沼に生息するカエル。元々関東地方には生息していなかったが、近年分布を拡大している国内外来種※。

※人の手によって、日本の元々いた地域から別の地域に持ち込まれた生き物。

そうち こうさくち 草地・耕作地

そうち そうほんらい
草地とは、主に草本類
が生育している場所で、河川敷
や空き地などに多く見られる環境で

す。
こうさくち たがや
耕作地とは、人が土を耕し、稲や野菜など
の作物を栽培している場所を指します。
そうち こうさくち こがた ほにゅうらい こんちゅう
草地や耕作地では小型哺乳類や昆虫
類、爬虫類など、多くの生き物
が確認されています。

St.4

おおあな きたしゅうへん
大穴北周辺・
きど がわりゅういき
木戸川流域



St.3

たか ね がわりゅういき
高根川流域



St.
14-1

えび がわりゅういき
海老川流域



St.9-2

こま ごめ がわりゅういき
駒込川流域



：専門調査地域
：市民調査地域

そ う ち こ う さ く ち
草地・耕作地で見つかった生きもの

指 指標種 **重** 重要種 **外** 外来種

カヤネズミ(球巢) **指** **重**



河川敷や背の高い草地に生息する小型のネズミ。姿を見ることは少ない。草地で草を丸めた球状の巣を作る。

ヒバリ **指** **重**



草地や耕作地で見られる鳥。頭に小さいトサカの冠羽がある。縄張りを主張して上空でさえずる。

ヒメジョウジ
ナガカメムシ **重**



草地や畑に生息する小型の昆虫。体の色は赤と黒で、十字に見える模様がある。

ヒガシニホントカゲ **指** **重**



民家の脇、畑、道路わきの斜面などに生息するトカゲ。若い時期は尾がコバルトブルー色。石垣などで日光浴をする。

ツマゲロヒョウモン **指**



草地などに生息する中型のチョウ。オスはヒョウ柄の模様でメスは翅の端が黒になる。

ススキ **指**



日当たりのよい草地や空き地に生育するイネ科の大型の植物。秋には穂が金色にかがやく。

オオヨシキリ **重**



ヨシ原などの背の高い草地で見られる鳥。春から初夏に「ギョギョシ、ギョギョシ」と鳴きながら縄張りをアピールする。

アオジ



スズメくらいの大きさの鳥。冬に藪や草むらで見られ、街中の公園などにも見られる。

クルマバッタモドキ



草地や河原でよく見られるバッタ。体の色は全体的に茶色～緑色。

にじりん 二次林・公園緑地

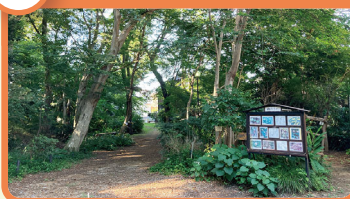


人の活動によって維持管理されてきた樹林を二次林といいます。公園緑地とは、公園や緑地の総称です。都市化の進む船橋市の中でも、二次林や公園緑地は鳥類や植物をはじめとした多くの生き物の生息環境となっています。

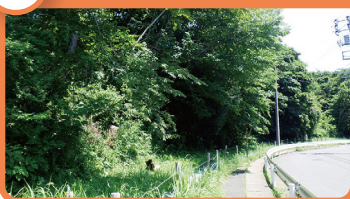
St.12 藤原市民の森緑地



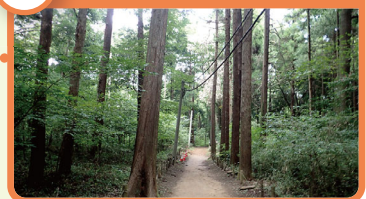
St.11 丸山の森緑地



St.6 古作町周辺



St.5 県民の森周辺



St.2 田喜野井周辺





St.17 西船4丁目緑地



St.1 船橋大神宮周辺



 : 専門調査地域
 : 市民調査地域

にじりん
二次林で見つかった生きもの

指 指標種 重 重要種 外 外来種

オオタカ

重



里山や樹林に生息する猛禽類。大きさはカラスと同じくらいで、鳥や小動物を捕食する。

トマトタマシ

指



美しい光沢をもつ昆虫。エノキやケヤキのある樹林に生息する。

コゲラ

指



樹林などで見られるキツツキの仲間。樹木の多い公園にも生息する。くちばしで木に穴をあける。

トマユリ

指



大型のユリ科の植物。花はにおいが強く、花びらの赤い斑点と黄色の線が特徴的。

アオダイショウ

重



里山や街中に生息する緑がかった灰色の体色が特徴のヘビ。木登りが得意。

アカボシゴマダラ

指 外



中国大陸原産のチョウ。特定外来生物であり、他のチョウの仲間の生息する場所を奪う可能性がある。

公園緑地で見つかった生きもの

指 指標種 重 重要種 外 外来種

ニホンカナヘビ

指 重



日本固有のトカゲの仲間。尾が長いことが特徴。落ち葉や草むらの間に生息する。

シジュウカラ

指



街中の公園から森林までひろく生息する小型の鳥。敵から身を守るためなどから、他の種類の鳥と混じた混群という群れを作る。

オオキンケイギク

指 外



河川や空き地などに見られる植物。北米原産の特定外来生物。鮮やかな黄色い花をつけ、葉は切り込みのないへら状。

か せん 河川

船橋市は印旛沼に注ぐ印旛沼流域の河川と東京湾にそそぐ海老川流域の、主に2つの流域河川で構成されています。河川沿いには湿地や草原といった多様な環境があり、多くの生き物が生息しています。



か せん 河川で見つかった生きもの

- 指 指標種
- 重 重要種
- 外 外来種

オオバン 重

河川や沼に生息する水鳥。白いくちばしが特徴的。水に潜ることが得意。

カワキシャ 重

水辺や湿地に生える植物。青紫色の小さな花を春～夏に咲かせる。葉はギザギザしている。

コサギ 指 重

全長 60cm 程度のサギ。サギの中で最も小型。水辺で魚や両生類を捕食する。

オオイトトンボ 重

池沼や湿地、緩やかな河川の小川に生息するトンボ。千葉県全域で急激に数を減らしている重要種。

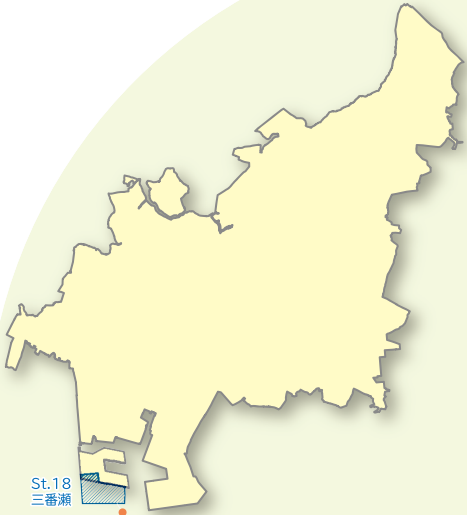
アユ

清流に生息し、石についたコケなどを主に食べる。成長に応じて海と川を行き来する回遊魚。

モツゴ 重

平野部の浅い池沼や河川の下流域など、流れが緩い水域にすむ。底生動物やコケなどを食べる。

: 専門調査地域
 : 市民調査地域



St.18
三番瀬

St.18
三番瀬



ひがた 干潟

ひがた しお み
干潟とは、潮の満ち引きによって、ある時は陸地が現れ、またある時は海水におおわれる、平坦な砂や泥が広がっている場所のことです。船橋市の南端には東京湾を臨む干潟である三番瀬があり、干潟環境特有の種が多く生息しています。

ひがた 干潟 で見つかった生きもの

指 指標種
重 重要種
外 外来種

ダイゼン 指重

さんばん せ とり わた
 三番瀬でよくみられる鳥。渡りを行うふゆどり
 冬鳥のため、夏はあまり見られない。

ニホンスナモグリ

ひがた すなはま ふだん すな
 干潟や砂浜に生息する。普段は砂に潜っている。片方のはさがもう片方に比べて大きい特徴を持つ。

シャリンバイ

ていぼく しよくよう
 海岸にみられる低木。ブルーベリーのような実をつけるが、食用ではない。

キンクロハジロ 重

みずうみ
 湖や海で見られるカモ。黒白の体にトサカのような冠羽が特徴。水に潜ることが得意。

コマツキガニ 重

ひがた こがた すな どころ
 干潟に生息する小型のカニ。砂や泥の中の餌を食べ、残った砂を砂団子として吐き出す。

ハマシギ 重

ひがた すなはま とり
 干潟や砂浜で群れをつくる鳥。冬に多く飛来し、三番瀬では秋から春にかけて見られる。

前回調査からの変化

前回調査と比較すると、以下の4つの課題が明らかになりました。

1

宅地開発による
生息地の減少・分断

宅地開発により、生き物の生息地が分かれてしまったり、減少が見られました。

2

耕作地などの放棄・管理不足

使われなくなった水田や畑の面積の増加が見られ、生き物の生息地が分かれてしまったり減少が見られ、環境の状態が悪くなっていました。

3

新たに侵入した外来種

今回の調査では、これまで確認されていなかった外来種も多く見つかりました。中でも、特定外来生物であるアライグマが、広い範囲で見られるようになっていました。



アライグマ

4

温暖化の影響

地球温暖化の指標種として選んだクマゼミ、ナガサキアゲハ、ツマグロヒョウモンの3種はいずれも、前回調査時より分布が広がっており、温暖化が生態系に影響していると考えられました。



ナガサキアゲハ

ふなばし自然環境
紹介動画

船橋市の自然を紹介する動画を作成しました。下の二次元コードから見るができます。



ふなばし自然散策マップ



自然散策マップをリニューアルしました。また、従来の自然散策コースの一部を、自然をより深く探索できる自然観察スポットとして更新しました。下の二次元コードのページからダウンロードできます。



ふなばし生物多様性
ポータルサイト

船橋市では、2050(令和32)年度のめざす将来像を「台地から海へ 水・緑・生命(いのち)と共に暮らす都市(まち)」とし、生物多様性の保全と持続可能な利用をめざしています。

下の二次元コードのページから船橋の生物多様性についての情報を見ることができます。



ふなばしの自然 令和6~7年度 船橋市自然環境調査

令和8年5月発行
発行 船橋市
編集 船橋市 環境部 環境政策課
〒273-8501 千葉県船橋市湊町2-10-25
TEL: 047-436-2454 FAX: 047-436-2487
E-mail: kankyoseisaku@city.funabashi.lg.jp
受託者 パシフィックコンサルタンツ株式会社